

令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第5学年【国語】

1. 実態の分析

- 区学力調査では、校内平均正答率が目標値を上回ったが、区の平均正答率を下回っていた。
- 問題の内容別正答率では、「漢字を書く」、「物語の内容を読み取る」、「ポスターを作る（情報を適切に読み取り、ポスターの文を書く）」について、区の平均値を5ポイント以上下回っていた。特に、漢字を書くことについては、無解答が多く見られた。
- 正答率が80%以上の児童が30名（4割強）いるのに対し、60%に満たない児童も20名（3割）おり、学力が二極化している。

2. 改善策

- 漢字ドリルの小テストを毎日行うことにより、漢字の定着を図る。また、前学年の漢字にも戻りながら指導する。
- 辞書を手元に置き、意味の分からない言葉を辞書で調べさせる。
- 短作文を書く機会を取り入れたり、授業後の振り返りを毎時間、どの教科でも行ったりすることで、文を書くことに慣れ親しませる。
- グループでの話し合い活動を増やし、児童が主体的に学習に取り組めるような工夫をする。

<改善策に対する検証>

- 学年末に、台東区総合学力調査の過去問（第6学年）に取り組み、学年通過率を75%にする。

第5学年【算数】

1. 実態の分析

<学力テストの結果より>

- 台東区の学力調査では、活用において校内平均正答率が目標値を4ポイント下回った。
- 観点別に見てみると、「数学的な考え方」、「数量や図形についての知識・理解」が特に低かった。
- 領域別に見ると、「量と測定」、「図形」の校内平均正答率が目標値を下回った。
- 問題の内容別正答率では、「いろいろな形」、「分数」、「億と兆・概数の表し方」の校内平均正答率が目標値を下回っていた。
- かけ算やわり算の計算ミスが多く、演算決定ができていても正答に結び付かないことがある。
- 既習の学習の定着や積み重ねが不完全で、新しい学習に円滑に入ることができないことがある。
- 算数の学習に対する意欲にばらつきがある。

2. 改善策

- 問題を解くことができたという達成感をスモールステップで感じさせられるように、授業中に細やかに丸付けを行ったり、つまづいている児童にはヒントを与えたりするなど指導していく。
- 間違った問題は必ず間違いを直す時間を設けるとともに、問題を解く数を増やすことにより、習熟を図る。
- 友達と意見を交流し、様々な考えに触れる学習を行うことによって、算数的な思考力を高めたり、算数の学習に向かう意欲を高めたりする。

<改善策に対する検証>

- 学期末のワークテストで平均点を90点以上にする。
- 学年末にアンケートをとり、算数の学習に対して肯定的な考えをもつ児童を7割以上にする。

令和元年度 台東区立金曾木小学校授業改善推進プラン

第5学年【理科】

1. 実態の分析

- 区学力調査では、基礎的な問題の正答率が7ポイント、応用問題の正答率は9ポイント目標値を下回っており、学習内容全体の復習が必要である。
- 正答率が60%に満たない児童が28名(4割強)おり、学習内容全体の復習が必要である。

2. 改善策

- 理科講師と単元計画や指導法などについて話し合い、共通理解を図る。また、毎時間の授業の様子や児童の実態についても伝え合い、次時の指導に生かす。
- 授業の導入では、自分の生活経験との結び付きを考えるなどの工夫をすることで、興味や関心をもたせるようにする。
- 実験や観察をするだけでなく、結果から自分の力で考察できるように、「何のために実験や観察をしているのか」、「得られた結果から何が分かるのか」を考えさせ、問題解決型の学習活動を展開する。
- デジタル教科書やビデオ教材などを活用し、実物を見ることが難しいものは映像資料を提示することで、興味・関心をもたせたり、理解を深めさせたりする。

<改善策に対する検証>

- 学年末に、台東区総合学力調査の過去問(第6学年)に取り組み、学年通過率を70%にする。

第5学年【社会】

1. 実態の分析

<学力テストの結果より>

- 台東区の学力調査では、基礎の部分において校内平均正答率が目標値を4.6ポイント下回った。
- 観点別に見てみると、「社会的な思考・判断・表現」、「観察・資料活用の技能」が特に低かった。
- 領域別に見ると、「安全を守る活動」「先人の働き」「県の様子」の校内平均正答率が目標値より下回った。
- 問題の内容別正答率では、「安全なくらし」、「地いきのはってんにつくした人々」、「地図の見方」、「県の様子」の数値が目標値を下回った。
- 調べ学習を行うと、教科書に書いてあることを書き抜き発表することにとどまってしまっている児童が多い。

2. 改善策

- 社会の授業において地図帳の索引を引き、地名を調べる学習を取り入れる。また、学習の中でも、グラフや写真などから気付いたことや分かったことなどを調べる学習を行い、観察・資料活用の技能を高める。
- 単元の最後に、単元の学習を通して感じたことを振り返りに書くことにより、社会的な事象に対する考えをまとめる時間を設定する。また、友達と交流することにより、考えを深められるようにする。

<改善策に対する検証>

- 学年末のワークテストで平均点を90点以上にする。
- 児童の振り返りで、資料を活用し、自分の考えを述べることができる児童を9割以上にする。